

## 27C-am05

酸化マグネシウムがレボドパ／カルビドパ配合剤の薬物動態に与える影響の評価  
○與田 賢作<sup>1</sup>, 寺尾 唯<sup>2</sup>, 柏原 祐志<sup>2</sup>, 廣田 豪<sup>2</sup>, 窪田 敏夫<sup>3</sup>, 木村 美由紀<sup>4</sup>, 平川 雅章<sup>1</sup>,  
入江 伸<sup>4</sup>, 家入 一郎<sup>2</sup> ( <sup>1</sup>福岡徳洲会病院薬, <sup>2</sup>九大院薬, <sup>3</sup>第一薬大地域医療薬学セ, <sup>4</sup>福岡みらい病院臨床研セ)

【目的】パーキンソン病の第一選択薬である L-dopa は、末梢において代謝酵素によりその大部分が代謝されることから、血中濃度維持のために代謝酵素阻害剤の carbidopa との合剤が用いられる。一方、パーキンソン病の症状として消化管運動障害による便秘が高頻度に生じることから、酸化マグネシウム (MgO) が併用されることが多い。しかし、MgO 服用後に胃内 pH が上昇すること、アルカリ条件下では L-dopa が分解することが報告されていることから、生体中では両者に薬物相互作用が生じることが示唆される。本研究では、この相互作用が L-dopa, carbidopa の体内動態にもたらす影響を評価することを目的とした。

【方法】同意の得られた健常日本人成人 10 名を対象とし、以下に示す試験 1, 2 からなる臨床試験を実施した。被験者は試験 1 に参加後、試験 2 に参加した。試験 1 ではメネシット配合錠 (L-dopa 100 mg 及び carbidopa 水和物を無水物として 10 mg) 1 錠を経口投与した。Wash-out の後、試験 2 ではマグミット錠 (500 mg) を 2 錠就寝前に経口投与した。さらに、翌朝、マグミット錠 (500 mg) 2 錠とメネシット配合錠 1 錠を経口投与した。

【結果・考察】臨床試験の結果、MgO 併用により L-dopa の AUC が約 35% 低下し、carbidopa の AUC は約 80% 低下した。MgO 服用後胃内 pH が上昇し、carbidopa が分解され血中濃度が低下したことにより、L-dopa 代謝阻害能が低下し L-dopa の血中濃度も低下したと推察される。